



三月 (大) 弥生 女宿

三月五日啓蟄の節より
月命癸卯一白水星の月
暗剣殺北の方

旧正月大
二月小

日	曜日	干支	九星	行	事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出	月入	満潮	干潮
1日	火	みづのとうし	五黄	春の全国火災予防運動(7日迄)、奈良東大寺二月堂修二会、一粒万倍日	旧正月大	廿九	大安	とづ	背	天おん	6.12	17.36	5.30	15.48
2日	水	きのえとら	六白	●朔二時三十分、ひな祭、耳の日	旧正月小	卅	赤口	たつ	参	くま日	6.10	17.37	6.09	15.54
3日	木	きのと	七赤	●朔二時三十分、ひな祭、耳の日	旧正月小	朔	友引	のぞく	井	神よし	6.09	17.38	6.09	15.54
4日	金	ひのえとら	八白	二日灸、不成就日		二	先負	みつ	鬼	大みやう	6.08	17.39	6.14	15.51
5日	土	ひのと	九紫	啓蟄二時四十分、新潟浦佐押合祭		三	佛滅	みつ	柳	十し	6.06	17.39	6.14	15.51
6日	日	つちのえうま	一白	旧初午、鹿児島霧島神宮お田植祭、宮城岩沼竹駒神社初午祭		四	大安	たいら	星	神よし	6.05	17.40	6.14	15.51
7日	月	つちのひび	二黒	消防記念日		五	赤口	さだん	張	神よし	6.04	17.41	6.14	15.51
8日	火	かえさる	三碧	国際婦人デー、庚申		六	先勝	とる	翼	大みやう	6.02	17.42	6.14	15.51
9日	水	かのと	四緑	茨城鹿島神宮祭頭祭、一粒万倍日		七	友引	やぶる	軫	大みやう	6.01	17.43	6.14	15.51
10日	木	みづのえいぬ	五黄	●上弦一九時四十分、塩竈神社帆手祭、旧こと始め、旧針供養		八	先負	あやぶ	角	大みやう	5.59	17.44	6.14	15.51
11日	金	みづのと	六白	八せん終り		九	佛滅	なる	亢	母倉	5.58	17.45	6.14	15.51
12日	土	きのえ	七赤	奈良東大寺二月堂お水取り、甲子、近江八幡左義長祭、不成就日		十	大安	おさん	氏	百事よし	5.57	17.46	6.14	15.51
13日	日	きのと	八白	奈良春日大社祭		十一	赤口	ひらく	房	天おん	5.55	17.46	6.14	15.51
14日	月	ひのえとら	九紫	三隣亡、一粒万倍日		十二	先勝	とづ	心	天おん	5.54	17.47	6.14	15.51

春らしい陽気の日があると思うと、急に真冬に立ち返ったような寒い日もある月で、気温だけでなく、天候も激しい変わり方をする。関西では、十二日の奈良のお水取りが終わらないと春がやって来ない、と言ひ伝えられ、一方、暑さ寒さも彼岸までと言ふことわざのあるのが、気温の不安定さを物語っているようである。

【冠】三月三日は「桃の節句」である。もともと「上巳の節句」といっていたもので、これが桃の節句や、雛の節句といわれるようになったのは江戸中期以降らしく、現在のように立派な雛段の形式になったのは近年になってからである。女の子が初めて迎える桃の節句を「初節句」といい、雛人形を飾ってその子の将来を祝う。内裏雛といひつたのは、幼女が成長して、よい結婚生活を送るように願う心の現れであろう。

日	曜日	干支	九星	行	事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出	月入	満潮	干潮
15日	火	ひのと	一白	京都嵯峨釈迦堂お松明		十三	友引	たつ	尾	天おん	5.52	17.48	6.14	15.51
16日	水	つちのえとら	二黒	西宮広田神社例祭、社日		十四	先負	のぞく	箕	●	5.51	17.49	6.14	15.51
17日	木	つちのと	三碧	旧ねはん会、己巳		十五	佛滅	みつ	斗	十し	5.50	17.50	6.14	15.51
18日	金	かえうま	四緑	●望一六時一八分、彼岸入り、旧二の午、石川気多大社おいで祭(23日迄)、大つち		十六	大安	たいら	牛	大くわ	5.48	17.51	6.14	15.51
19日	土	かのと	五黄	上野動物園開園記念日、不成就日		十七	赤口	さだん	女	大みやう	5.47	17.52	6.14	15.51
20日	日	みづのえさる	六白	●春分の日、春分〇時三十分、彼岸中日、一粒万倍日		十八	先勝	とる	虚	神よし	5.45	17.52	6.14	15.51
21日	月	みづのえさる	七赤	●春分の日、春分〇時三十分、彼岸中日、一粒万倍日		十九	友引	やぶる	危	大みやう	5.44	17.53	6.14	15.51
22日	火	きのえいぬ	八白	NHK放送記念日、奈良法隆寺会式		廿	先負	あやぶ	室	月とく	5.43	17.54	6.14	15.51
23日	水	きのと	九紫	世界気象デー		廿一	佛滅	なる	壁	母倉	5.41	17.55	6.14	15.51
24日	木	ひのえ	一白	彼岸明け		廿二	大安	おさん	奎	母倉	5.40	17.56	6.14	15.51
25日	金	ひのと	二黒	●下弦一四時三十分、電気記念日、奈良薬師寺花会式(31日迄)		廿三	赤口	ひらく	婁	大みやう	5.38	17.57	6.14	15.51
26日	土	つちのえとら	三碧	天しゃ、小つち、三隣亡、一粒万倍日		廿四	先勝	とづ	胃	よろづ	5.37	17.57	6.14	15.51
27日	日	つちのと	四緑	京都表千家利休忌		廿五	友引	たつ	昂	大みやう	5.35	17.58	6.14	15.51
28日	月	かえうま	五黄	東京品川千体荒神大祭、京都裏千家利休忌、不成就日		廿六	先負	のぞく	畢	●	5.34	17.59	6.14	15.51
29日	火	かのと	六白			廿七	佛滅	みつ	觜	十し	5.33	18.00	6.14	15.51
30日	水	みづのえうま	七赤	旧三の午		廿八	大安	たいら	参	神よし	5.31	18.01	6.14	15.51
31日	木	みづのえとら	八白			廿九	赤口	さだん	井	天おん	5.30	18.02	6.14	15.51

【婚】婚礼の最も多い月のひとつである。ことに大安の日となれば、式場はスケジューリングが完全にうまっているという。誰しもがよい日を選ぶのは当然であるが、婚礼は本人同士の誓いを中心に近親の承認と祝福を得れば十分。結婚披露宴は、大宴を張るよりも時間内にムードを盛り上げるよう工夫しよう。

【葬】彼岸入りから彼岸明けまでの「春分」を中心にした七日間は春のお彼岸である。真西に太陽が没すること期間、西方に浄土があるという仏教の教えから、無欲悟道の対岸の域に一番近い日とされ、死者の冥福を祈り、仏供養、墓参りなどをする。

【祭】奈良東大寺の二月堂では、十三日未明に堂前の若狭井の水を汲んで加持を行う。これは厳しい戒律のもとに千数百年にわたって続けられてきたのが国府数の重要行事である。

春分、秋分に最も近いつちのえの日を「社日」といひ、農耕の神を祭る。社日の社は「示」と「土」から成り立ち土の神の意味である。